



様式第5号（第5条関係）

令和6年3月31日

益田市議会議長
福原 宗男様

議員 大賀 満成 ⑩

益田市議会政務活動費の交付に関する条例第6条第1項に基づき、下記のとおり提出します。

令和5年度政務活動費収支報告書

1 収 入

政務活動費 60,000円

2 支 出

(単位：円)

科 目	金 額	備 考
調 査 研 究 費	72,000	新潟県燕市、三条市、南魚沼市
研 修 費		
広 報 費		
広 聴 費		
要請・陳情活動		
会 議 費		
資 料 作 成 費		
資 料 購 入 費		
人 件 費		
事 務 所 費		
合 計	72,000	

3 残 額 0円

(注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。

政務活動費支出報告（調査研究費）

視 察 先	新潟県燕市「つばめ若者会議」「つばめ産学協創スクエア事業」
調 査 日	令和6年1月15日 ～ 令和6年1月17日
視察内容	「つばめ若者会議」「つばめ産学協創スクエア事業」
経 費	宿泊研修旅費 63,850 円
所 感	「つばめ若者会議」 説明： 地域振興課 2013年に「つばめ若者会議」は市長が合併後の高校生から40歳までを対象として、その意見、考えを聞き、自主性と主体性を重視することで「新しい何かを生む」ことを期待してスタートした事業です。特徴的」な形として「政策提言型」でない事。このことにより、より自由で財政的なものに縛られない発想が出来る形である。また、会議は年代別に分け特に高校生は意見が出やすいように工夫され、行政側も「まちあそび部」と称し親しみやすく全体を統括するように取り組んでいる。高校生がまちづくりに関わるきっかけをあそびから創出した点、若者の楽しむ場を地域の大人も協働した点、若者に当事者意識をさせた点などが評価され、令和4年度には「ふるさとづくり大賞」を受賞するなど充実した取り組みになっている。当市でもまちづくりラウンドテーブルなど様々な人が関わる取り組みがあるが、燕市の取組みを参考にターゲットを絞り「あそびこころ」のある取り組みで若者の声を聴く場の創出も必要であると感じた。

「つばめ産学協創スクエア事業」

説明：商工振興課

「つばめ産学協創スクエア事業」は端的に言えば、インターンシップの受け入れ推進事業ということになる。燕市はスプーンなど金属製品の加工に優れたまちでモノづくりのことで有名であるが、それを支える人材の不足、特に若い世代のモノづくりへの関心が下がっていることに着目して産学協創により燕市らしい特徴を生かしたインターンシップ事業に取り組むこととなった。他との違いの大きな点として、産業界の積極的なかわりである。産業界の寄附により拠点となる施設の整備（空き店舗活用）と燕市商工会議所工業部会が中心となって設立した法人「公益社団法人つばめいと」が中心となりそれぞれの機関やひとを結ぶコーディネーターの役割を果たすことでスムーズな運営が図られています。これまでのインターンシップの受け入れ実績はコロナウイルス感染症による影響もあり参考にしづらいが関心の高さがうかがえる。燕市に関心を持ちそのまま定着する例も増えているが、一方で学生の囲い込みともとれるようなこともあり課題もあるとのこと。当市においても産学連携の必要性を感じつつも同じ中小企業と名はついてはいるが、その企業規模が違っていることから産学連携には行政の深いかわり、支援が必要であると感じた。

政務活動費支出報告（調査研究費）

視 察 先	新潟県三条市役所
調 査 日	令和6年1月15日 ～ 令和6年1月17日
視察内容	「地域おこし協力隊について」「移住・定住について」
経 費	<u>宿泊研修旅費 63,850 円</u>
所 感	「地域おこし協力隊について」 説明：市民部 地域経営課コミュニティ推進係 三条市は平成17年に3市町村の合併で現在の三条市となる。地域おこし協力隊の受け入れは平成27年度から受け入れており令和6年1月1日で122名の受け入れ実績がある（その内43名が活動中）雇用形態は支援機関と業務委託を結び、連携してサポートしていく体制を取っている。地域課題解決から持続可能な取組みの創出が地域おこし協力隊の役割である点はどこも同じであるが、合併により面積も増えたが旧三条市と旧下田村地区の地域間格差がありそれぞれの課題の違いへの対応を担っている。特徴的なのは、地域おこし協力隊の採用数の多さであるが、募集方法が支援機関が募集・スカウト、移住関連サイト告知、移住コンシェルジュのスカウトなど積極性が感じられる。一方で定住率の低さを課題として挙げているが、委託により責任の所在曖昧などもあったがまずは多くの方に地域おこし協力隊として三条市に入ってもらうことが大切で定住率よりどれだけの方が残ってくれたかが重要ではないかと前向きにとらえている姿勢が今後につながるのではないかと感じた。当市もスカウティングに力を入れて地域おこし協力隊を増やすことも必要ではないか、せっきくの国の制度を有効活用すべきである。

「移住・定住について」

三条市がなぜ人気移住地No.1 になれたのか～まちづくり・ひとづくりの極意～ の資料に基づき説明いただいた。

燕市と隣接している三条市は同様にモノづくりのまちとして知られている。一番目を引く取り組みは情報発信の取り組みである。地域おこし協力隊による毎日の情報発信により最新かつ外からの目で求められるものへのアプローチが非常に有効であったと感じた。もちろん、仕事や生活の相談、移住コンシェルジュなど手厚い個別支援が特徴である。モノづくりを通して体験できる強みを発揮して地域おこし協力隊と企業との連携でつながりのあるイメージ図が描けている。当市の定住・移住施策も視覚や感性に訴え、まずは、当市に関心を持ってもらうことに重きを置き進めるべきと感じた。

政務活動費支出報告（調査研究費）

視 察 先	新潟県南魚沼市役所
調 査 日	令和6年1月15日 ～ 令和6年1月17日
視察内容	「仕事探し（マッチボックス）」
経 費	宿泊研修旅費 63,850 円
所 感	「仕事探し（マッチボックス）」について 説明：産業振興部商工観光課商工振興班 マッチボックスとは「単発のお仕事探し」のことでこれからの働き方の多様性の点でも注目される取り組みである。 南魚沼市は米や酒造りで有名な地域で新潟県の中部に位置するが積雪が多く人口減少少子高齢化も進んでいるうえ、人材不足が顕著な地域である。地方共通の課題ではあるが、働き方を工夫することで眠っている人材の掘り起こしが求められる中でマッチボックス事業を採用することで地域の課題解決につなげることとした。 短時間労働や、単発での仕事については出来る可能性があるにもかかわらず、登録や手続きが面倒であったりする課題があり進まなかったのが、民間の活力、アプリの進化によりこれまでよりも手軽に試すことができるようになった点が大きい。但し、それだけでなく、行政のきめ細やかなフォロー体制を商工振興班の職員が作り、安心と信頼関係を築いた結果、先行して取り組んだ同県湯沢町よりもマッチボックスで検索すると南魚沼市の取組みがヒットするなどアプローチの仕方によって変化があることを実感した。同様な課題を抱える当市も人材確保策としてチャレンジする価値はあるものと感じた。

領 収 証

№ 013854

令和 5 年 7 月 28 日

大賀 満成 様

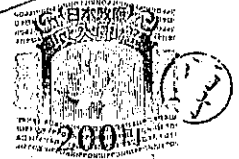
領収金額	百万	千	円
	¥	72000	

但しホテル代と

上記金額正に領収致しました



島根県知事登録2-9号 全旅協保証社員
株式会社 全国観光公社
〒698-0023 島根県益田市常盤町5番29号
TEL (0856) 22-1144
FAX (0856) 22-1141
E-mail: info@zenkannet.jp



領 収 証

№ 014251

令和 6 年 1 月 22 日

大賀 満成 様

領収金額	百万	千	円
	¥	63850	

但し1/15~1/17 航空券、JRA代、宿泊代

上記金額正に領収致しました

<税抜金額>

10%

<消費税額>

10%



島根県知事登録2-9号 全旅協保証社員
株式会社 全国観光公社
〒698-0023 島根県益田市常盤町5番29号
TEL (0856) 22-1144
FAX (0856) 22-1141
E-mail: info@zenkannet.jp



登録番号 T2280001005043

